

平成29年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490700067	事業の開始年月日	平成21年6月1日
		指定年月日	平成21年6月1日
法人名	大信産業株式会社		
事業所名	グループホーム みのり 丸ちゃん・山ちゃん		
所在地	(〒235-0001 )		
	横浜市磯子区丸山1丁目16-5		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成30年1月25日	評価結果 市町村受理日	平成30年8月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・グループホームの理念である「おいしく食べて心も体も健康に」を開設当初から柱として、新鮮でおいしい食事を提供できるようにと毎日取り組んでいます。</p> <p>・季節の行事、誕生会、外食、ホーム近辺の散策、町内の餅つき、敬老会や盆踊り大会等のイベントに参加し、外の空気に触れて、地域の方々とふれあい、単調な生活にならないように、スタッフ同士で企画を立て実行しています。</p> <p>・医療機関と連携し、24時間体制で体調変化の早期発見に留意し、速やかな対応を心がけ、重度化を防いでいます。また、住み慣れたグループホームで最期を過ごしたいと希望なされた方には、充分な話し合いを持ち、医師、訪問看護師のもとで看取り介護を支援しています。</p> <p>・ご利用者様の尊厳を第一に考え、それぞれの思いに寄り添い、個性を大切にされた支援をこころがけ、実践しています。</p>
---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル 9階		
訪問調査日	平成30年3月12日	評価機関 評価決定日	平成30年5月18日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は、JR根岸線根岸駅または磯子駅からバスで10分、バス停から5分ほどの住宅地内にある。事業所の前面道路沿いには、スーパーマーケット、マンション、文教施設等が立地し、裏手は一般住宅地が広がる落ち着いた地域である。建物は、鉄筋コンクリート造3階建であり、2階と3階に2ユニットの事業所、1階には同一法人が運営する小規模多機能型居宅介護事業所等が入居している。地域密着型サービス事業所として、町内会主催の夏祭り、盆踊り、敬老会、餅つき大会に積極的に参加して交流するなど、地域との連携を進めている。また、地元町内から入居されている方も多く、地域に馴染んだ事業所になっている。</p> <p><b>【おいしく食べて心も体も健康に】</b> 事業所では、理念の「おいしく食べて心も体も健康に」を自信を持って実践している。献立・調理は、事業所の調理専門の職員が担当しており、1カ月ごとの献立表に基づき食材を発注している。職員が心を込めて作った料理は、利用者・家族から「おいしい」と評判である。職員は、交代で利用者を見守ったり介助したりしながら、同じものを同じテーブルを囲んで食べている。利用者は、米研ぎ、みそ汁づくり、盛り付け、後片づけ、食器洗いなど、できる事を手伝っている。食事に変化を持たせるため、利用者の希望で、利用者と一緒にラーメン、餃子、手打ちうどん、ピザなどを手作りしたり、外食を楽しんでいる。</p> <p><b>【歌声や笑い声があふれる明るい事業所】</b> 理念のもう一つの柱「認め合って、支え合ってその人らしさを大切にします」を大事にした支援をしている。利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉がけや介護を心がけ、職員は、日常業務やミーティングの場で確認し合っている。入浴や排泄、声掛けの際も、利用者の意向を尊重して対応している。ダイニングやリビングでは、利用者との明るい歌声や笑い声があふれている。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみのり
ユニット名	丸ちゃん山ちゃん

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の食生活の充実ともう一つの理念である「認め合って、支え合って、その人らしさを大切に」をスタッフで共有し、職員間の連携をはかり、ご利用者様の個性を尊重し、ケアにつなげています。	理念は、開設当初に作成されたもので事業所に根付いたものになっている。理念で大事にしている食事は、職員が心を込めて作り、利用者や家族からは「おいしい」と評判である。管理者や職員は申し送りやミーティングで日々のケアについて、理念に立ち戻って意見交換をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様は、地元の方も多く、餅つき大会、夏祭り、敬老会に参加し、親しくしていた方に声をかけていただいたりと交流が続いています。	町内会に加入し、餅つき大会、夏祭り、盆踊り、敬老会に参加している。町内から入居の利用者も多く、地域に溶け込んだ事業所になっている。町内会が開催している「ふれあい喫茶」に管理者が参加し地域の高齢者と交流している。地域ケアプラザから紹介された傾聴ボランティアの来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域との交流の際に、日頃のケアの中から得た事等を具体的に発信し、地域の方々が気軽に訪問して、相談窓口となる様に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開き、近々の活動状況をお伝えし、地域の方、ご家族から出された意見やアドバイスを伺い、サービスの向上に役立てています。	2か月に1回開催しており、町内会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族と利用者が参加している。事業所の運営状況や活動内容を報告しており、町内会の行事案内等がある。オレオレ詐欺について情報交換をしている。メンバーが事業所の避難訓練に参加している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際には、地域包括支援センターの方に、毎回ご参加いただき、地域全体の状況や近隣の町内会の情報等を伺って、ご指導をいただき、連携することの大切さを学ばせていただいています。	法人主催の虐待に関する研修の講師として区の職員を招いている。生活保護費を受給している入居者の支援について、区の担当職員と連携している。横浜市高齢者グループホーム連絡会とは「エンゼルケア」研修の講師を紹介するなど連携を進めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないと決められていますが、認知症の進行でやむをえず、検討しなければならない時は身体拘束（施錠、ベルト、サイドレール）の説明と同意を家族からいただき、必要な時、必要でない時を判断し、対応できるようにミーティングで話し合いをします。	「身体拘束ゼロへの手引き」をマニュアルとして活用している。区の職員を講師に招き、虐待に関する研修を法人で実施している。ユニット間の出入りは自由になっているが、玄関は安全のため施錠している。利用者に外出の意向がある時は、職員と一緒に付き添って出たり、話を聴いたりしている。	緊急やむを得ない事由があり長期間4点柵を使用している事例が見られます。「身体拘束ゼロへの手引き」にある「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書」及び「緊急やむを得ない身体拘束に関する経過観察・再検討記録」の様式例を参考にして、改善への取り組みを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修をスタッフも受ける機会が増え、意識が高まりつつあります。施設内でも何気ない言動が虐待にならないか、お互いに注意をはらっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方が各フロアにいらっしゃり、制度についての知識が浸透しつつあります。必要とおもわれる方、関心をもたれた方には、制度の説明、内容等をお伝えしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書を声にだして読みながら、ひとつひとつ説明をし、納得いただいています。契約締結後も家族にホームでの様子を伝えて、話しやすい関係ができるようにつとめています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見ボックスを設置して、家族や関係者から頂いた意見や要望をミーティングにあげて、意見を出し合い、改善すべき点は直していき、記録に残します。	家族から来所時や電話で意見を聞き、個人ファイルに記録している。夜の着替えを好まない利用者の家族からの要望に対応し、着替えの支援をしている。家族と相談し、頻繁に空腹を訴える利用者に対応している。個別ケアに関する意見は聞いているが、運営に関する意見はあまり出ていない。	家族同士が集まり意見交換する機会が少ないようです。また、運営に関する意見はあまり出ていません。全家族に運営推進会議の開催案内を出すなどして家族が意見交換し、運営に参加する機会をさらに増やすことを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送りや業務の合間で意見、情報の交換を行い、月に1回フロアミーティングやリーダーミーティングで議題にあげて皆で検討します。	月1回定期的にフロアミーティングとリーダー会議を開催している。フロアミーティングでは行事や利用者支援に関する意見交換をしている。職員の意見で職員のインフルエンザ予防接種を、法人指定以外の最寄りの医療機関で実施できるように変更している。リーダー会議では、主に事業所全体の情報交換や運営管理面について話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場を目指して努力や実績が給与、役職等に反映できるようにしています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員のシフトを作る時は個々の希望を考慮しながら組み、働きやすい環境にして、スキルアップのための研修は積極的に参加できるようにバックアップしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会に加入し勉強会や他のグループホームとの交換実習に参加して、お互いの良かった点、改善すべき点を学びながら交流しています。同法人内での交流や情報交換は日頃から活発に行われています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しくいらした場所が安心できる所だと思っただけのように、お声かけをおこなったり、お話をじっくりと伺い不安な要素を取り除く様にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が納得して入居を決められる様に、迷っていることや、不安なことが解消されるように、話し合いの機会を設けたり電話で連絡を取り合ったりして信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活状況を伺い、何が必要とされているか見極め、情報収集に努め、ケアの方針を決めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの能力に応じて、できる事を大切にし、ご利用者様と職員が共に支え合う関係が築けるようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の希望、要望を伺ったうえで、ご利用者様とご家族の良い繋がりが保てる様に、季節の行事、運営推進会議等へ参加していただき、ご家族と職員が協力してご利用者様を支えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方が多くこともあり、入居前に利用なさっていた地域の美容院や馴染の店、通院等はつながりを切らないようにしています。	近隣地域から入居している利用者が多く友人・知人の来訪が多い。事業所の真向いにあるスーパーマーケットや商店街に買い物に行き、馴染みになっている。家族との電話や利用者手書きの書面をファックスで送る支援などを行っている。墓参りや入居前の家に家族と行く利用者がいる。般若心経を唱えている方、短歌を詠んでいる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で役割分担を決めたり、時にはひとつのことに皆でかかわったりしながら、よりよい関係性を築くようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方、他施設へ移られた方に面会に行ったり、その後の様子をご家族から知らせていただいたり、移られた入院先や施設との情報交換もおこなっています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様の思い、意向を伺い、出来る限りこれにそえる様に努め、介護計画変更時に記載して全職員が把握できる様にし、また、これまでの言動等から類推し思いや意向にそえる様に検討・実行を行っています。	日常生活の中での何気ない会話などから把握した情報を職員間で共有している。「ラーメンを食べたい」、「ピザを食べたい」などの利用者の声に応え、利用者職員が食べたいものを共同で手作りする関係が作られている。意向の把握が困難な場合も表情や態度から推測し、手探りで意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々のファイルがいつでも手に取れる様、スタッフルームに保管し、全職員がご利用者様の生活歴、生活環境を把握し、日々のケアに活かし、其々の個性に合った対応を行い、尊厳を大切にされたケアに繋がっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送り、申し送り帳、ミーティング等で、一日の様子、ADL、新しい発見、利用者さまのさりげない言葉を、記録に残し職員全員が共有・把握出来る様に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者さま、ご家族の思いや意向を伺い、現状にそくした暮らし、ケアの方向を把握し、医療職等の見解を取り入れ介護計画を作成し、日々個人記録にも載せ、ケアに反映させる様にし、モニタリングは3か月/1回を基本として行っています。	介護計画は、原則3か月ごとに見直している。医療情報は「在宅医療往診記録」や「往診ノート」で確認し、見直しに反映している。「個人記録」上欄に介護計画の目標を記載する様式になっており、介護計画に連動したとケアが出来るように工夫している。職員意見をカンファレンスや個別で聞いて計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画が分かり易く記載された個別記録に、日々の様子や行ったケアの実践・結果等を記入し、職員間の情報共有を行い、ケアや介護計画の見直しに役立てています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人に限らず、他施設との交流、連携をはかり、多様化するニーズにおこたえできるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生まれ育った地域とのつながりが切れないように地域の情報を集めて、催し物等は可能な限り参加できるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の通院を希望なさる方には継続して受診できるように協力し、受診時の状況、処方薬をきちんと把握し、ご利用者様の状態の情報提供をおこなっています。	数名の利用者は入居前からのかかりつけ医を家族対応で受診している。協力医の往診は月2回あり、歯科医は必要時に往診がある。訪問看護は週1回あり、訪問マッサージの利用もしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と訪問看護師の信頼関係ができており、普段の生活の中での小さな変化や気づきを伝えて迅速な対応、指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合は入院先の主治医と連携をとり、時には直接お会いして退院後の生活が安心して送れる様に、指導、助言をいただいています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に関する施設の方針をお話し、段階を経て、ご家族、医師、看護師で話し合いをし、同意が得られたときは看取り介護を行えるようにしています。	契約時に「重度化・終末期ケア対応指針」に基づき方針を家族に説明している。終末期には、医師、家族、事業所で話しあい、看取りの希望があれば、家族に同意書ももらい対応している。終末期ケアについては、尊厳を大事にし、温かく見守る方針をミーティング等で確認している。法人で講師を招き、エンゼルケアの研修をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム開設からの職員もいて、ご利用者様の急変や事故発生時の対応には経験を積んできていますが、今後もミーティングや研修を通して実践力を身に付け、経験の浅いスタッフに指導ができるようにしていきます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行い、全職員が参加できるように工夫しています。火元、時間帯、状況と想定を変えて訓練に臨み、地域の役員、民生委員、主任ケアマネ、ご家族にも参加していただいています。	年2回避難訓練を実施し、うち1回は消防署立ち合いの下、夜間想定訓練を行っている。消防署からは、火元に近い方から、ハンカチを口に当て、低い姿勢で避難することなどのアドバイスを貰った。訓練には運営推進会議のメンバーも参加している。事務室には職員用のヘルメットが用意されている。備蓄専用庫に3日分の飲料水と非常食の備蓄があり、備蓄チェック表で管理している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様、それぞれのプライバシー、人格を尊重し、心のこもった丁寧な声掛けを行い、入浴や排泄の際は、ご本人の意思を大切に支援を行っています。	管理者は、否定的な言葉づかいをしないように指導している。入浴や排泄などの支援の際は、本人の気持ちを尊重し、本人のタイミングを待つ様になっている。本人や家族に聴いて本人の心地よい呼びかけ方をするように心がけている。個人情報に関する書類は事務室の施錠できるキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の気持ちに寄り添い、その思いや希望を受け止めるようにしています。また、ご自身の思いや希望を表しにくい場合は、日常の言動から職員が推測しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間、日中の活動時間はだいたい決めてありますが、参加は本人の意思で決め、その日の体調やペースに合わせて生活できるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に服装はご本人に好きなものを選んでいただき、洗濯はこまめにし、整髪、髭剃り等常に、清潔、整容を心がけています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しい食事を皆で楽しくできるように、それぞれの咀嚼する力に合わせて、食材に切れ目を入れたり、刻みにする等工夫し、配膳、盛り付け、食器の片づけを職員と一緒にし、手際の良さを発揮されています。	食材は、調理専任の職員が作成した1ヶ月分の献立表に基づき発注している。利用者は、米研ぎ、みそ汁の味付け、盛り付け、下膳、食器洗い等できる事を手伝っている。職員は、見守りながら利用者と同じものを同じテーブルで食べている。利用者、家族からは食事がおいしいと評判である。時には、利用者の希望でラーメン、餃子、手打ちうどん、ピザを一緒に作ったり外食をしたりして食事に変化を持たせている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量を必ず記録に残し、食が進まない方には好きなものを食事時間以外に召し上がっていただいたり、水分摂取が少ない方には好みの飲み物をすすめた上で、栄養・水分確保が不足する場合は医師、看護師に相談します。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、おひとりずつに合わせた口腔ケアを行い、必要な方は、訪問歯科の往診を依頼し、治療や助言をいただいています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターン、習慣を職員が把握し、タイミングを見計らって誘導をし、トイレでの排泄を第一に考え、清潔に過ごしていただくように支援をしています。	各ユニットに車いす対応のトイレが3か所ずつ設置されている。排泄チェック表で排泄パターンを把握した上で、本人の意向を尊重したトイレでの排泄を基本としている。夜間は本人の様子を見ながら排泄介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、体操で体を動かし、十時のお茶の際は、ご本人の好みの飲み物を飲んでいただき、排泄表で排便の有無を確認し、下剤を処方されている方は服薬していただいています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則として週2回の入浴を行い、体調、身体状況に合わせて、シャワー浴をとりいれたりし、入浴を楽しんでいただけるように工夫しています。	週に2回、午後の時間帯に入浴している。重度の方には職員2人で介助している。希望があれば同性介助に対応している。好みの専用のシャンプー、石鹸を使用している方もいる。利用者は、入浴後に用意される牛乳、ジュース、珈琲、日本茶などを楽しみに行っている。浴室、脱衣室には暖房器具が設置されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間、起床時間は特にきめず、ご利用者のリズムに合わせて、必要な方には、昼寝も取り入れています。リネンは清潔なものを使用し、部屋の温度、湿度、照明にも気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の目的、用法、用量を薬情報提供書で確認し、把握し、服薬時には、ご本人に確認していただき、職員二人体制で、服薬チェック表を用い、目視して服薬していただいています。薬の変更があった時は申し送り帳に記載し、職員全員が把握できる様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の好みを把握し、それぞれが楽しく過ごせる様に、レクリエーション、外出支援を行い、役割分担を持つことによって張り合いのある暮らしが出来る様にしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族や地域の方の協力をいただき、出来る限り、ご本人の希望に沿って、戸外にでかけたり、外食、地域の行事への参加、散歩等に出かけられる様に支援しています。	天気の良い日には、主に事業所裏手にある公園に出かけている。事業所向かい側にあるスーパーマーケットや少し足を延ばして近隣の商店街などに買い物に行っている。本牧から山下公園方面にドライブすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方は所持していただき、支援の必要な方には行事、外出等のときに、ご自分で支払が出来る様にお手伝いしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の声が聞きたくなくなった時や、電話での連絡が必要な時は、いつでも利用できるようにしています。FAXで簡単な文を書いて送る方もいらっしゃいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な共同空間で、ご利用様が安心して居心地よく過ごせる様に工夫し、各部屋の掃除をスタッフと一緒にいき、季節に合わせた飾り等をみんなで力を合わせて作り、食堂やリビングに飾っています。	食堂とリビングがそれぞれ独立した区画になっており、利用者は、活動内容によって使い分けている。生花や行事写真などが飾られ生活感のある空間になっている。毎朝、モップがけ、水拭き、電気掃除機で掃除をしている。トイレは1日3回以上掃除をして清潔を心がけている。加湿器や濡れタオルで湿度管理をし、空気清浄機を置いている。ダイニングルームの壁面には、絵の得意な職員が画いた利用者全員の似顔絵が飾られ、和やかな雰囲気を演出している。明るい歌声や笑い声が聞こえる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の好きな場所でご自身のペースで過ごしたり、時には皆さんと談話して楽しめる様に環境を整え、職員が声掛けを行い、ご本人の希望に応じた場所を勧められる様に工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご利用様に馴染みの深い物、使い慣れた家具、飾っておきたい物等をご持参いただき、好みに合った物の中で安心して過ごしていただけるようにしています。	居室には、エアコン、クローゼット、照明、フットライトが備え付けとなっている。カーテン、ベッド、イス、タンス、テレビ、カレンダー、家族写真、仏壇、本、雑誌、ランプ、呼び鈴、掛け軸、賞状、のれん等、馴染みの物が持ち込まれている。居室で般若心経を唱えたり、短歌を詠んだりする利用者もいる。それぞれの方の生活が偲ばれる居室になっている。	

55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋のドアには見やすいネームプレートを掛け、トイレ、浴室等はわかりやすいように表示して迷わず移動できるようにし、ご利用者様の力を活かしています。		
----	---	---	--	--

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームみのり  
丸ちゃん山ちゃん

作成日 平成30年 8月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	34	内部研修が充実していない。	内部研修を通じて、職員の意識づけを行い、日々のケアの質の向上をはかる。	第1回目、「認知症介護入門」という研修を行って、これ以降も数回実施の予定。	1年
2	65	運営推進会議への、ご家族の参加がほとんどない。	運営推進会議の役割を理解していただき、参加をお願いし、ご家族の意見を反映させていく。	ご家族に、運営推進会議が開催される日時をお知らせし、お時間のとれる方に参加をお願いする。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。